

Society5.0 時代を生き抜く人材育成のための探究学習プログラム

——「高校生版・Information Analysis 5&5」の有効性の検証

Inquiry based learning programme for developing human resources to survive in Society 5.0:

Validation of the 'Information Analysis 5&5 for High School Students' effectiveness

吉田夏帆・關谷武司・京谷和哉・赤堀寛子・井村記子・高橋優太・西千裕・森裕紀子・山岡まりこ

YOSHIDA Natsuho, SEKIYA Takeshi, KYOTANI Kazuya, AKAHORI Hiroko, IMURA Noriko, TAKAHASHI Yuta,

NISHI Chihiro, MORI Yukiko, YAMAOKA Mariko

社会の変化が激しいSociety 5.0時代の学校教育には、学習者が様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、玉石混淆の情報を見極めて知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくことのできる資質・能力の育成が求められている。申請者らが取り組んできた「Information Analysis 5&5」は、まさにそういった資質や能力の育成を目指す探究学習の手法である。このような背景から、本研究の目的は、この手法を用いた探究学習プログラム「高校生版・Information Analysis 5&5」の有効性を検証することにある。具体的には、①同探究学習プログラムの目標や枠組みは文部科学省が提示する「総合的な探究の時間」のそれと合致しているか、②同探究学習プログラムは「総合的な探究の時間」で育成すべき学習者の資質や能力の獲得に貢献し得るか、③同探究学習プログラムは実際の学校現場においてどの程度実現可能性が見込めるものか、という3つの点を明らかにする。そして、高等学校におけるより効果的かつ実現可能性ある探究学習プログラムの実践に資する知見やロールモデルの提示を試みる。

キーワード：探究学習、国際情報分析、高校生

Key words : inquiry based learning, information analysis, high school student

1. はじめに

1) 研究の背景及び目的

Society 5.0時代の到来ならびに情報化やグローバル化の進展等を受け、社会事象の複雑化や予測困難性の増幅がより激化すると言われている。また、選挙権年齢や成年年齢の引き下げに伴い、高校生にとって政治や社会が一層身近なものとなることから、我が国においても、学習者が自ら考え、積極的に国家や社会の形成に参画すべき環境が整いつつある。ゆえに、学校教育には、学習者が様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、玉石混淆の情報を見極めて知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくことのできる資質・能力の育成が求められている（文部科学省 2018）。このような背景から、2018年の学習指導要領改訂に伴い、高等学校において「総合的な探究の時間」が導入されることとなった。しかしながら、同学習指導要領では、探究学習の実施方針等は学校現場に一任されており、その具体的かつ効果的な枠組みや実践手法の詳細については明示されていない。それゆえ、学校現場（教師）は探究学習の導入や実施において様々な困難を抱えている（一般社団法人英語4技能・探究学習推進協会編 2021）。そのような

中、申請者らは、大学教育ですでに高い効果が確認されている国際的な探究型授業の枠組みをアレンジし、実に6年前から、高校生を対象とした一泊二日の合宿形式による探究学習プログラム「高校生版・Information Analysis 5&5」を実施してきた。

そこで本研究は、この探究学習プログラム「高校生版・Information Analysis 5&5」に関する次の3点について検証することを目的とする。①同探究学習プログラムの目標や枠組みは文部科学省が提示する「総合的な探究の時間」のそれと合致しているか、②同探究学習プログラムは「総合的な探究の時間」で育成すべき学習者の資質や能力の獲得に貢献し得るか、③同探究学習プログラムは実際の学校現場においてどの程度実現可能性が見込めるものか。これらの検証を通して、本研究では、高等学校におけるより効果的かつ実現可能性ある探究学習プログラムの実践に資する知見やロールモデルの提示を試みる。

なお、先行研究では、従来の探究学習について、「調べ学習との差異化が不分明」「学習者主体の探究学習の具現化が難しい」「学習指導要領が示す高次の探究になっていない」といった課題が指摘されている（一般社団法人英語4技能・探究学習推進協会編 2021；本田 2022）。一方、この探究学習プログラム「高校生版・Information Analysis 5&5」では、「単なる調べ学習に終始しない探究のデザインとなっていること」「問いかけによる指導で学習者主体の探究を引き出す仕組みとなっていること」「一泊二日の合宿形式で行うことで集中的に探究を深める時間の確保が可能であること」といった点に特色があり（關谷編 2021）、これらがまさに、従来の探究学習とは異なる独創的な点になっていると言える。

2) 探究学習プログラム「高校生版・Information Analysis 5&5」の概要

この「Information Analysis 5&5」とは、単に情報を受け身的に取捨選択するだけではなく、自らが主体となって情報を分析・評価し、最終的には自分自身の考えを論理的に構築していくことを目的とした、高次の思考を促す探究手法である（關谷編 2021）。同探究学習プログラムでは、この探究手法を用いて一泊二日の「知の合宿」を行い、世界や日本で生じている様々な課題をテーマに、世の中の通説に対して、ファクトにもとづいてその検証を試みる。

具体的には、「Information Analysis 5&5」の5つのステージに沿って探究を進める。まずインターネットを活用して課題の概略を掴み（Stage1）、そこでキーとなる情報（論点）を選択する（Stage2）。続いて、その情報をもとに図書館で関連文献を検索および収集し、得られた文献から検証に必要なファクトを拾い上げていく。さらに、それらの情報を「Information Analysis 5&5」の5つの観点（①根拠の検証、②背景の把握、③利害関係の把握、④論理性・妥当性の検証、⑤三角検証）にもとづきグループメンバーと検討を繰り返す（Stage3）。そして、真実はどのあたりにあるのかを議論を通して探究し（Stage4）、自分たちの考えを論理的に構築し最終結論を導き出す（Stage5）。これを一泊二日の合宿という缶詰状態で行うことで、参加生徒の知的好奇心を刺激し、グループメンバーとの協働で妥協のない探究活動を促すのである。

同探究学習プログラムは、5人程度のグループに分かれて実施する。実施にあたっては、全体統括であるモデレーターの指導の下、各グループにはサブモデレーターが1人ずつ配置され、学習者の活動をより近くでサポートする。このサブモデレーターは「Information Analysis 5&5」の経験者等であるため、テーマの分析内容を詳細に把握しているが、活動中は学習者に答えを教えるのではなく、何度も問いかけを重ねることで、彼らの主体性・能動性を促し、自ら真実に辿り着けるよう導くファシリテーター的役割を担っている。

2. 研究方法

第一に、前述の研究目的①について、まず文献調査を行い、探究学習プログラム「高校生版・Information

Analysis 5&5」と文部科学省の「総合的な探究の時間」の目標や枠組みをそれぞれ整理し明示する。そして、両者を突き合わせて比較することで、探究学習プログラム「高校生版・Information Analysis 5&5」の目標や枠組みが文部科学省の「総合的な探究の時間」のそれとどの程度合致しているかを明らかにする。これにより、文部科学省の「総合的な探究の時間」としての、探究学習プログラム「高校生版・Information Analysis 5&5」の目標や枠組みの有効性を検証する。

第二に、研究目的②について、まず文部科学省の「総合的な探究の時間」が育成しようとする学習者の資質や能力を整理し明示する。そして、探究学習プログラム「高校生版・Information Analysis 5&5」がそれらの資質や能力の獲得にいかに関与し得るかを明らかにすることで、同探究学習プログラムの学習効果を検証する。また、同探究学習プログラムの特色である「問いかけによる指導」と「合宿形式による探究」の効果を調査することで、同探究学習プログラムの手法の有効性もあわせて検証する。

第三に、研究目的③について、探究学習プログラム「高校生版・Information Analysis 5&5」が、実際の学校現場でどの程度実現可能なものであるかを、同プログラムを実施する上で必要となるリソース、経費、教師の指導力、学習環境などの観点から分析し明らかにする。その上で、より汎用性の高い同探究学習プログラムの提示を試みる。

以上の調査ならびに分析による各項目の検証を通して、本研究では、日本の高等学校におけるより効果的かつ実現可能性ある探究学習プログラムの実践に資する知見等の提示を試みる。

3. 研究助成による教育実践成果

本研究成果については、後日、書籍や論文として公表することを計画している。ゆえに、著作権等の問題から、現時点においては、本報告書で本研究成果の詳細を論じることは難しい。したがって、本報告書では、特に本研究に係る教育実践の成果（令和5年度は3件実施）に焦点化して報告することとする。

1) 兵庫県における令和5年度職業学科・総合学科部科長等研究協議会の実施

令和5年5月17日に開催された令和5年度職業学科・総合学科部科長等研究協議会において、「高校生版・Information Analysis 5&5」の体験版ワークショップによる教員研修を実施した。同研究協議会の趣旨は、「①探究学習の在り方・進め方について理解を深めるとともに、職業教育・総合学科教育における探究学習の実践的な技能を高める」及び「②各校が実施している探究活動について情報交換を行い、部科長等としての自覚を高め、職業教育・総合学科教育等の充実・推進を図る」とされ、主題は「探究活動の高度化に向けて」と設定されていた。実施対象は兵庫県の高等学校の職業学科・総合学科の部科長の教員（約70名）で、参集型にて実施された。全体スケジュールは表1の通りで、そのうち筆者らの担当は「演習：探究力を鍛える」という体験型ワークショップ（教員研修）の実施（約3時間）であった。

従来の「高校生版・Information Analysis 5&5」では一泊二日分の時間を要するが、同ワークショップでは、それを圧縮し、3時間で体験いただけるようアレンジした。探究テーマは「経済（失われた30年）」で、Stage1（課題の全体像の把握）及びStage2（キーとなる情報の選択）までは過去に大学生が取り組んだ事例を引用し、それらをもとに、Stage3（個別の情報の収集と分析）及びStage4（個別の結果の統合）では実際に演習に取り組んでいただく形で実施した。そして最後のStage5（最終判断に向けての考察）については、再び大学生の実践事例に戻り、まとめとした。

表1 令和5年度職業学科・総合学科部科長等研究協議会の全体スケジュール

10:00	開会の挨拶／県教育委員会関係出席者の紹介／本日の予定の説明等
10:20	講演「探究活動のポイントとカリキュラム・マネジメント」（講師：Glocal Academy 代表理事・岡本尚也氏）
12:00	昼休憩
13:00	「演習：探究力を鍛える」体験型ワークショップ（講師：兵庫教育大学大学院学校教育研究科教育実践高度化専攻グローバル化推進教育リーダーコース講師・吉田夏帆／サポーター：兵庫教育大学大学院生ならびに関西学院大学国際学部教授・關谷武司）
16:00	教科連絡会の実施
16:15	閉会

出所：配布された実施プログラムをもとに筆者作成。

2) 西日本の高等学校における「高校生版・Information Analysis 5&5」の実施

当初は西日本の高等学校5校を対象に「高校生版・Information Analysis 5&5」を実施する予定であったが、担当教員の異動等の理由から、結果として実施可能校が2校となってしまった。受講生徒は合計38名で、彼らを対象に教育実践ならびに教育調査も実施した。探究テーマは、「食の安全」「国際機関の取り組み」「地球温暖化説」「経済」で、全体スケジュールは表2の通りである。対象校の生徒を対象に、従来の一泊二日形式の「高校生版・Information Analysis 5&5」（知の合宿）を実施し、成功裡に幕を閉じた。

表2 西日本の高等学校における「高校生版・Information Analysis 5&5」のおおよその全体スケジュール

一日目	
9:00	「高校生版・Information Analysis 5&5」導入の講義
10:30	Stage1（課題の全体像の把握）及びStage2（キーとなる情報の選択）の実施
12:00	昼休憩
13:00	Stage3（個別の情報の収集と分析）、Stage4（個別の結果の統合）、Stage5（最終判断に向けての考察）の実施
17:00	入浴、夕食、就寝の支度
19:00	成果発表に向けてのプレゼンテーションの作成
22:00	消灯
二日目	
9:00	成果発表に向けての最終準備（プレゼンテーションのリハーサルなど）
10:00	成果発表会、講評
12:00	終了

出所：各回の実施プログラムをもとに筆者作成。

4. おわりに

最終的に、本研究の成果報告会を、表3に示す通り実施した。同報告会では、主に兵庫教育大学に在籍する現職の先生方が参加くださり、特に最後の質疑応答（フリートーク）の際には有意義な意見交換を行うことができた。また、今後は、本研究成果の書籍化や論文化も計画しており、その実現に向けても引き続き尽力していきたい。

表3 成果報告会の概要（実際の案内文）

令和5年度「理論と実践の融合」に係る共同研究のシンポジウムのご案内

この度、標記シンポジウムを、オンラインにて開催する運びとなりましたので、以下の通りご案内いたします。

- ① テーマ:Society5.0 時代を生き抜く人材育成のための探究学習プログラム——「高校生版・Information Analysis 5&5」の有効性に関する実践研究
- ② 開催日時:令和6年3月30日(土)10:00～12:00
- ③ 開催方法:オンライン開催(Zoom)
- ④ シンポジウムの流れ(※当日の進行状況から多少前後する可能性があります):
 - 10:00～11:30 研究成果や実践内容に関する報告
 - 11:30～12:00 質疑応答(フリートーク)

⑤ 研究課題の概要:

社会の変化が激しいSociety 5.0時代の学校教育には、学習者が様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、玉石混淆の情報を見極めて知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくことのできる資質・能力の育成が求められている。研究者らが取り組んできた「Information Analysis 5&5」は、まさにそういった資質や能力の育成を目指す探究学習の手法である。

このような背景から、本研究の目的は、この手法を用いた探究学習プログラム「高校生版・Information Analysis 5&5」の有効性を検証することにある。具体的には、①同探究学習プログラムの目標や枠組みは文部科学省が提示する「総合的な探究の時間」のそれと合致しているか、②同探究学習プログラムは「総合的な探究の時間」で育成すべき学習者の資質や能力の獲得に貢献し得るか、③同探究学習プログラムは実際の学校現場においてどの程度実現可能性が見込めるものか、という3つの点を明らかにする。そして、高等学校におけるより効果的かつ実現可能性ある探究学習プログラムの実践に資する知見やロールモデルの提示を試みる。

出所：実際の成果報告会の案内文より引用。

参考文献

一般社団法人英語4技能・探究学習推進協会編（2021）『探究学習白書2021』。

關谷武司編（2021）『インフォメーション・アナリシス5&5：世界が変わる学びの革命』関西学院大学出版会。

本田由紀（2022）「高校の探究学習のテーマ設定場面における指導はいかに行われているか」『教育社会学研究』111：5-24。

文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説：総合的な探究の時間編』。